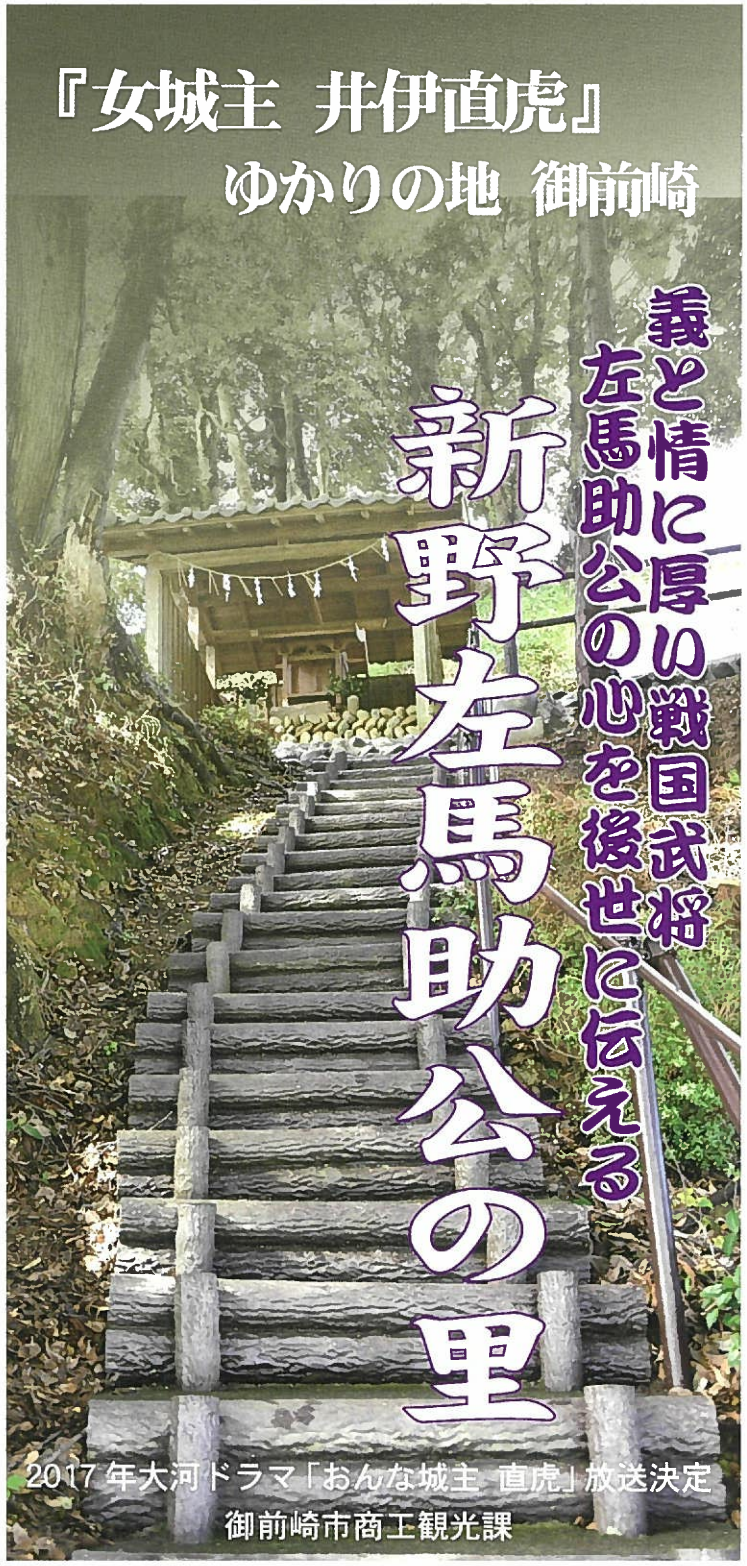


『女城主 井伊直虎』
ゆかりの地 御前崎

新野左馬助公の里

義と情に厚い戦国武将
左馬助公の心を後世に伝える

2017年大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送決定

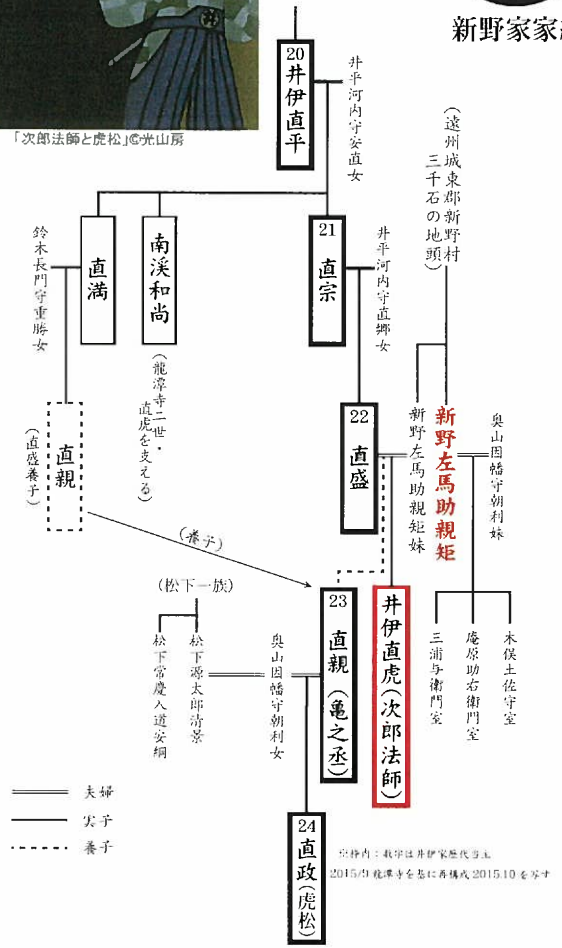
御前崎市商工観光課

直虎をめぐる 井伊家・新野家 家系図

「次郎法師と虎松」©光山房

井伊家家紋

新野家家紋



新野左馬助公顕彰会編集・2015年12月作成

新野左馬助公ってどんな方？

フルネームでは新野左馬助親矩（にいのさまのすけちかのり）公と言います。新野村三千石の領主で、今川氏の一族として代々『左馬助』を名乗っていました。新野舟ヶ谷城の城主、妻は奥山因幡守の妹。左馬助の妹は井伊直盛の妻、「おんな城主」となった井伊直虎の母でした。このことにより、新野村の領主だった左馬助公と井伊家とは、深い縁によって結ばれています。

永禄5年（1562年）、井伊直親が今川氏真の命によって掛川で討たれたとき、直親の遺児虎松を、身命を賭して守り養育しました。

永禄7年（1564年）、氏真に背いた飯尾連竜を攻めた浜松・引馬城の戦いで討死しました。

【虎松は後の徳川四天王の一人、井伊直政です】

©浜松歴史探偵隊

新野左馬助親矩公 © 光山房

連絡先 静岡県御前崎市商工観光課 ☎〈0537〉85－1135
URL http://www.city.omaezaki.shizuoka.jp/

一、新野氏と新野左馬助親矩

新野氏は、現在の御前崎市新野を本貫の地とした鎌倉御家人で、新野太郎は横地氏などとともに活躍します。その後、鎌倉末期以降、今川氏の一族が新野氏の名跡を継いだものと考えられています。

新野左馬助は、正式には新野左馬助親矩（ちかのり）といいます。新野村三千石の地頭でありながら、井伊家と関係を持った経緯を『井伊家伝記』では、**「左馬助妻は、奥山因幡守妹。又左馬助妹は、井伊信濃守直盛公の妻也。右の重縁故、城東郡新野郷を隠居、井伊谷へ引越し居住。」**としています。

左馬助の井伊谷入りは、今川家と井伊家の和睦の条件として、今川一族の左馬助を目付役家老として井伊家に付属したものと考えられています。

左馬助は、妹婿である井伊直盛の桶狭間戦死後、井伊家最大の危機に、今川家との間を懸命にとりまとめますが、永禄七年（一五六四）引馬城攻めで無念の死を遂げます。

二、井伊直虎（次郎法師）と左馬助

井伊直虎（次郎法師）は、井伊直盛の一人娘で、**左馬助の姪**になります。直盛には男子が無く、井伊直親（亀之丞）を次郎法師の許嫁（いいなずけ）として家督を継がせる予定でしたが、直親の父直満が今川氏に殺され、直親自身も命を狙われたため、**能仲和尚**の計らいで信州高森の松源寺に身を隠します。後年、直親は井伊谷に戻り、奥山氏の娘と結婚し虎松、後の直政をもうけます。

永禄三年（一五六〇）、桶狭間の戦いで井伊直盛が戦死した後、永禄五年（一五六二）井伊家の筆頭家老小野但馬は、「直親公が家康と内通している」と今川氏真に讒言（ざんげん）します。**井伊家は、新野左馬助を駿河に遣わし、直親に異心なきことの申し開きをしますが**、直親自身駿河に行き陳謝しようと掛川城下を通過するとき、討たれてしまいます。

この時、直政（虎松）は僅か二歳。虎松誅殺の命令が出されますが、左馬助は身命に替えて虎松の助命を嘆願し、許されて虎松は左馬助宅に保護されます。永禄七年（一五六四）左馬助の討死後、虎松は**左馬助妹（祐椿尼）**、次郎法師に八歳まで養育されています。

このとき、井伊家を継ぐ男子はただ一人になり、龍潭寺南渓和尚の計らいで次郎法師は後見人として**井伊直虎**と名乗り、女領主として井伊家を支えました。

女領主・井伊直虎の在任期間は、永禄八年（一五六五）から永禄十一年（一五六八）秋ころまでです。その後、直虎は龍潭寺境内の松岳院で母（左馬助妹）と共にひっそりと暮らしていたと想像されます。

天正二年（一五七四）、直政（虎松）が鳳来寺より戻り、直虎は、虎松を徳川家康に出勤させ、井伊家再興を果たします。

天正六年（一五七八）七月、井伊直虎の母（祐椿尼：左馬助妹）が逝去します。

天正十年（一五八二）八月、井伊直虎は松岳院で逝去します。

三、その後の新野家と左馬武神社

井伊直政は、命の恩人である新野左馬助に報いるため、左馬助の息女を直政の重臣に婚礼させています。また井伊家は、左馬助の忠節を歴代語り伝え、幕末になり大老直弼の兄、井伊中守は新野左馬助親矩の名跡を相続し、新野家を再興します。

井伊中守が、新野左馬助家を再興した事実の中に、左馬助の忠節によせる井伊家の篤き報恩の念を知ることができます。

井伊中守は、名跡相続後、新野村に左馬助の墳墓調査を行い、間蔵に墓石を発見しますが、この地が現在の**左馬武神社**です。

新野左馬助公顕彰会では、毎年、新茶を献上する「献茶祭」を行い左馬助公の遺徳を偲んでおります。

※本文の記述については、主に「遠江井伊氏物語」、「新野左馬助公」、「新野左馬助公の御人格を偲びて」などから引用、参照しています。

新野左馬助公・井伊氏関連年表

西暦	和暦	歴史事項
一五三六	天文五年	今川義元家督を継ぐ。
一五三六	天文八年	この頃、今川氏と井伊氏和睦。新野左馬助、目付家老として井伊家に付属し、左馬助妹、直盛の正室となる。
一五四四	天文十三年	井伊直満殺され、直満の子・亀之丞、信州市田郷松源寺へ逃れる。
一五五五	弘治元年	亀之丞、井伊谷へ帰り井伊直親と名乗る。
一五六〇	永禄三年	井伊直盛、桶狭間で戦死。
一五六一	永禄四年	井伊直政、幼名虎松生まれる。
一五六二	永禄五年	新野左馬助、井伊直親の異心無きことを申し開きするも、直親、掛川城下にて誅殺される。虎松、新野左馬助の助命により許され、新野宅にて養育される。
一五六四	永禄七年	新野左馬助、引馬城攻めで討死する。
一五六五	永禄八年	次郎法師、虎松の後見人として井伊直虎と名乗る。
一五六八	永禄十一年	龍潭寺南渓和尚、虎松を三河鳳来寺へ逃がす。
一五六九	永禄十二年	今川氏真、北条氏を頼り落ち行く。今川氏滅亡。
一五七五	天正三年	虎松、徳川家康へ出仕。家康万千代の名を与える。
一五七八	天正六年	直盛室（祐椿尼：新野左馬助妹）没。
一五八二	天正十年	本能寺の変。直虎（次郎法師）没。万千代元服し、井伊兵部少輔直政と名乗る。